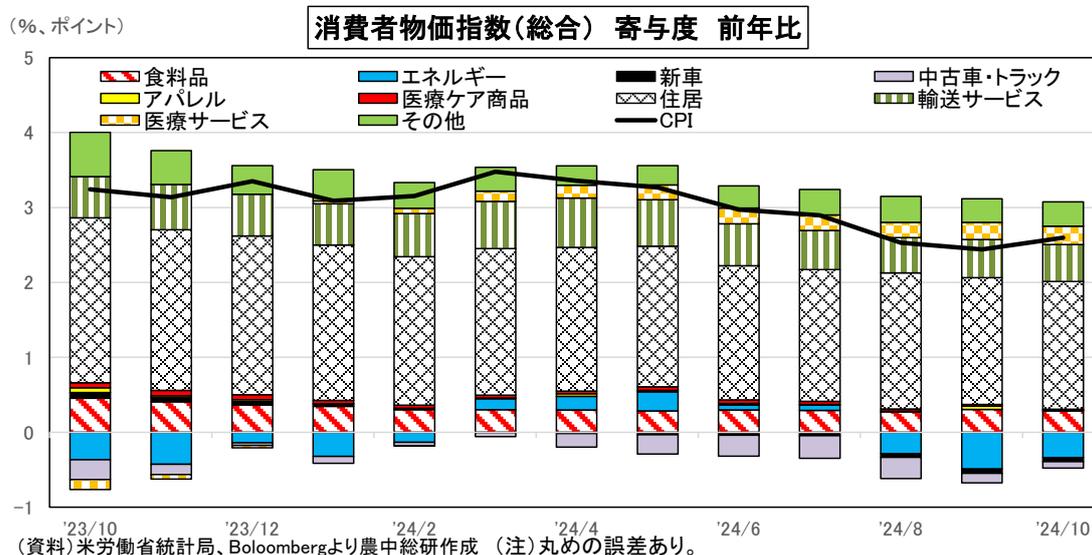
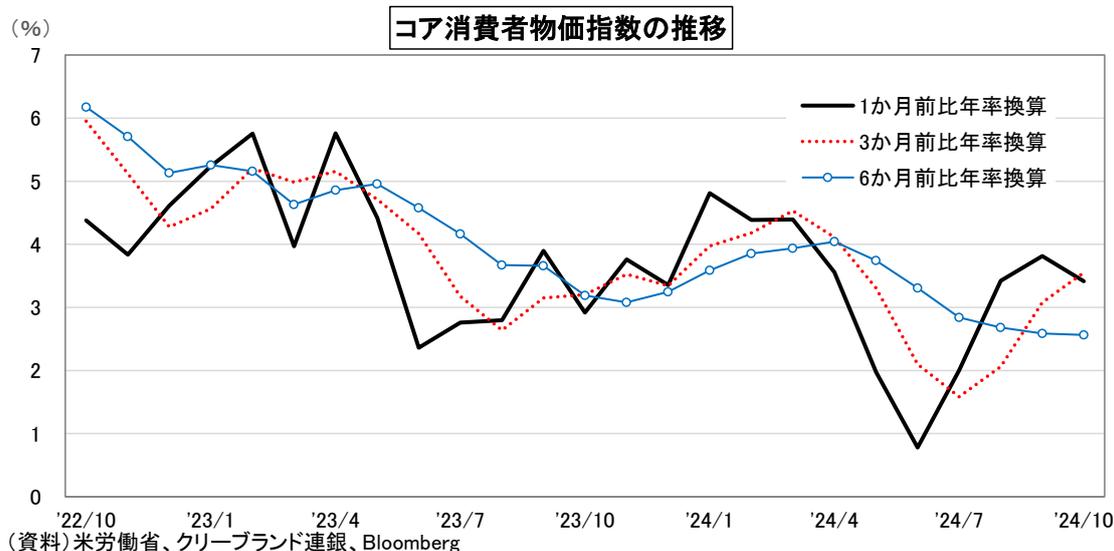


## (米国)総合とコアでまちまちな動きが続く消費者物価指数

10月の消費者物価指数(CPI)は、総合が前年比2.6%(前月比は0.2%)、食料とエネルギーを除くコアは同3.3%(同0.3%)となり、総合ではインフレ率の鈍化が確認された一方で、コア指数は下げ渋りが継続している。エネルギーを除いたコアサービスの上昇率は、同4.8%(同0.3%)と高い伸びが続いており、内訳をみると住宅費、輸送サービス、医療サービスはいずれも前月比0.4%となった。コア区分でみたインフレ率の押し上げ要因と考えられる。



下げ渋りがみられるコア CPI について、より足元の動きを確認しやすい1、3、6か月前比(年率換算)を計算すると、10月はそれぞれ3.4%、3.6%、2.6%となり、(PCEデフレーターでの)2%物価目標と比較すると、やや高いといえる。



10月のインフレ指標は総合とコアでまちまちな動きとなった。金融政策への示唆を考える上では下げ渋っているコア指数が重視されるが、労働市場がやや弱含んでいることなどから、12月FOMC(17、18日)では25bp利下げの見通しが維持されている。

第2次トランプ政権が実施するとみられる関税率の引き上げや減税などは、インフレ率を再加速させる可能性が高い。制度上の手続きなどの時間を考慮すると、そうした政策効果は25年後半または年末あたりから出始めると見込まれるため、FRBの金融政策が直ちに変更されることはなさそうだ。